

大雪山の火山活動解説資料（平成 23 年 9 月）

札幌管区气象台
火山監視・情報センター

火山活動に特段の変化はなく、火口周辺に影響を及ぼす噴火の兆候は認められません。
平成 19 年 12 月 1 日に噴火予報（平常）を発表しました。その後、予報警報事項に変更はありません。

○ 活動概況

・噴気などの表面現象の状況（図 1-①、図 2～6）

旭岳地獄谷爆裂火口の噴気の高さは火口上 200m 以下で、噴気活動は低調に経過しました。

26 日に北海道開発局の協力を得て、上空からの観測を実施しました。旭岳地獄谷爆裂火口では複数の噴気孔からやや活発な噴気活動が続いていました。赤外熱映像装置¹⁾による観測では各噴気孔に対応した地熱域が認められましたが、前回（2010 年 11 月）と比べ特段の変化はありませんでした。御鉢平では噴気及び地熱域は認められませんでした。

1) 赤外熱映像装置は、物体が放射する赤外線を感知して温度や温度分布を測定する計器です。熱源から離れた場所から測定できる利点がありますが、測定距離や大気等の影響で熱源の温度よりも低く測定される場合があります。

・地震及び微動の発生状況（図 1-②）

今期間発生した火山性地震は少なく、地震活動は低調に経過しました。

火山性微動は観測されませんでした。

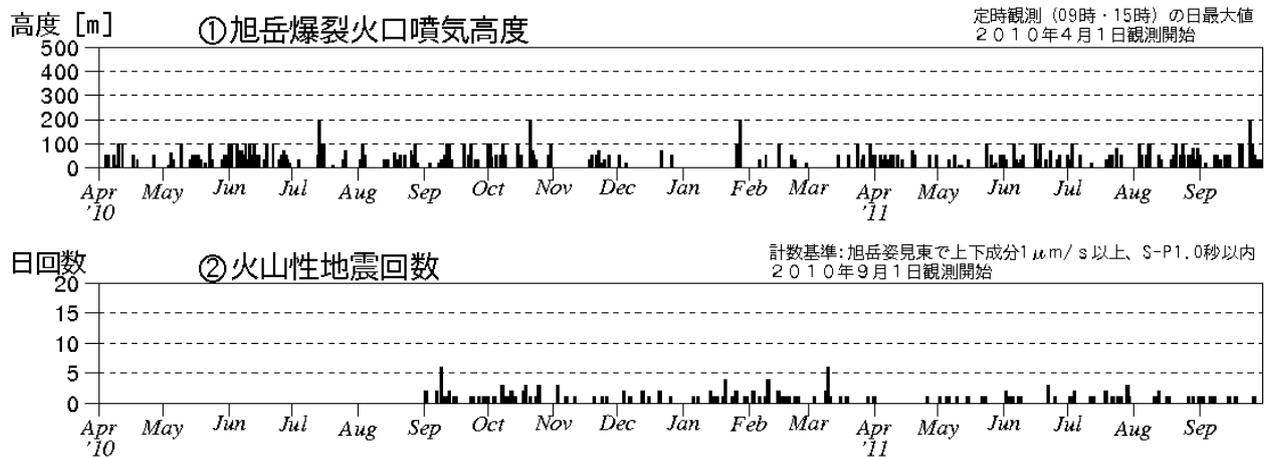


図 1 大雪山 火山活動経過図（2010 年 4 月～2011 年 9 月）

この火山活動解説資料は札幌管区气象台のホームページ(<http://www.jma-net.go.jp/sapporo/>)や気象庁のホームページ(<http://www.seisvol.kishou.go.jp/tokyo/volcano.html>)でも閲覧することができます。次回の火山活動解説資料（平成 23 年 10 月分）は平成 23 年 11 月 9 日に発表する予定です。

資料中の地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の『数値地図 50mメッシュ（標高）』を使用しています（承認番号 平 20 業使、第 385 号）。

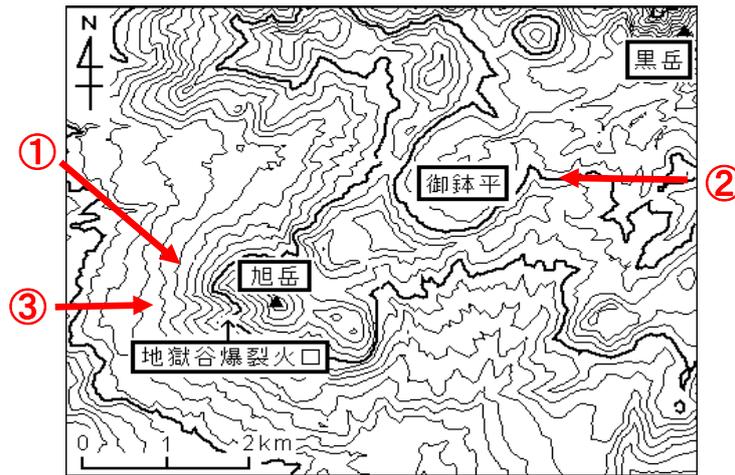


図 2 大雪山 周辺図
 (矢印は写真及び赤外熱映像の撮影方向)



図 3 大雪山
 北西側（図 2 の①）から撮影した旭岳の
 状況
 (9月 26 日撮影 北海道開発局の協力に
 による)



図 4 大雪山
 東側（図 2 の②）から撮影した御鉢平の
 状況
 (9月 26 日撮影 北海道開発局の協力に
 による)

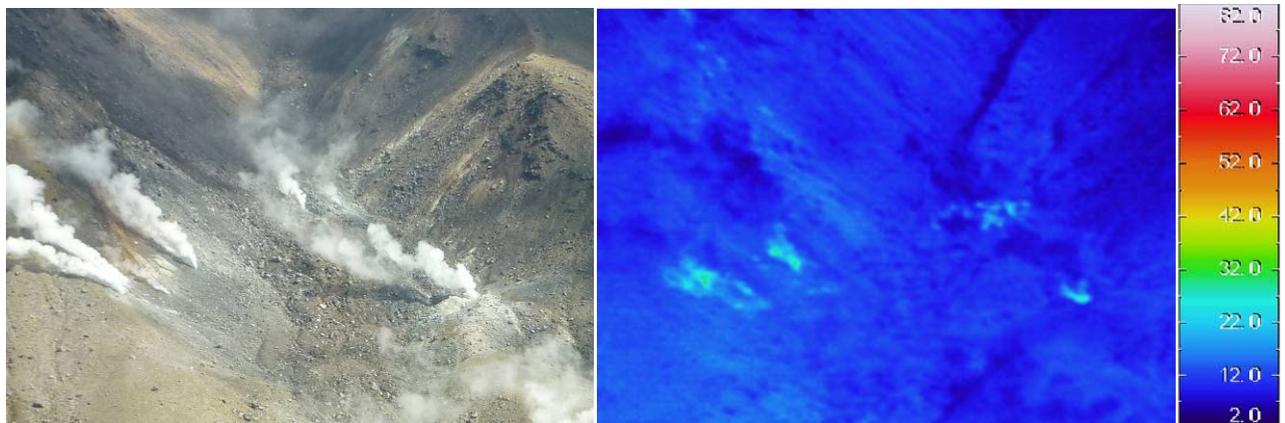


図 5 大雪山 赤外熱映像装置¹⁾による旭岳地獄谷爆裂火口の地表面温度分布
 (9月 26 日 図 2 の③から撮影 北海道開発局の協力による)



図6 大雪山 旭岳西側斜面の状況 (9月20日、忠別湖東遠望カメラによる) 白丸内は旭岳地獄谷爆裂火口の噴気

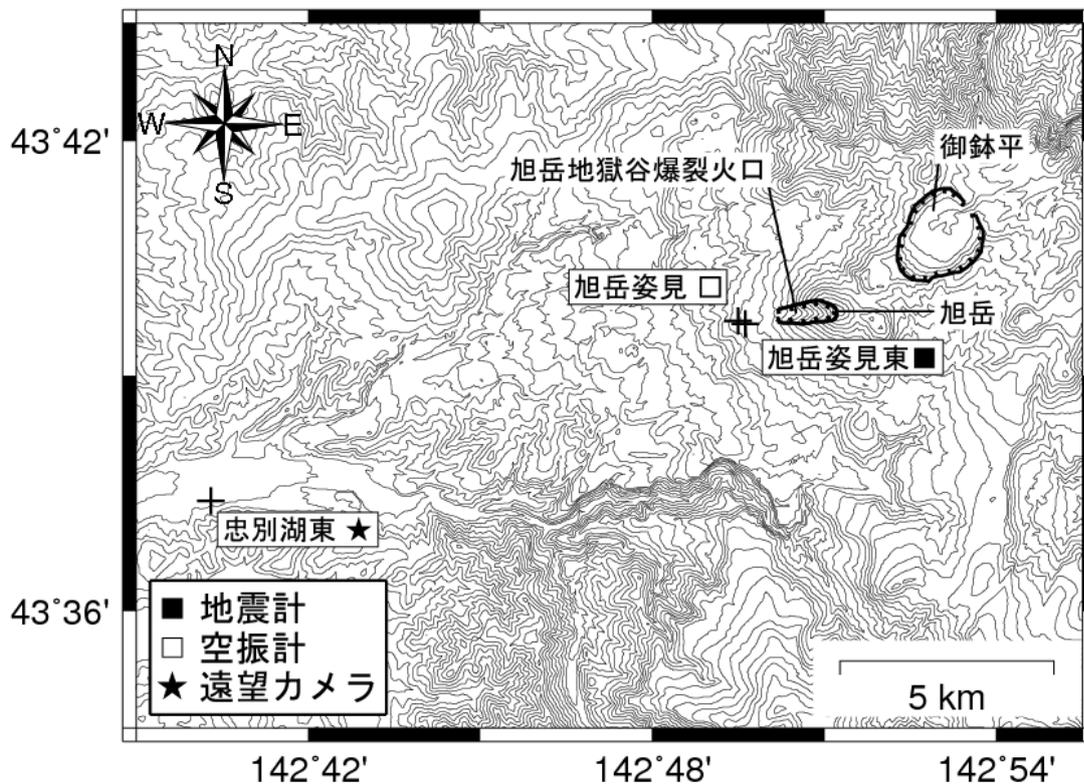


図7 大雪山 観測点配置図
+は観測点の位置を示す